

平成26年10月31日
京 都 府 立 大 学

京都府立大学元教員の研究活動における不正行為について

1 経緯・概要

- 平成26年4月3日：龍谷大学から当該教授が研究活動における不正行為を行ったので、府立大学在職中の研究活動の調査を行うよう協力依頼の通知
- 平成26年4月4日：学内に調査委員会を設置、調査を開始
 - 調査委員会 委員長 田中和博（副学長 研究担当）
 - 委員 渡邊 伸（文学部長）
 - 委員 野口祐子（文学部欧米言語文化学科教授）
 - 委員 稲村智史（事務局長）
- ～ 7月14日：延べ5回の調査委員会の開催を経て、調査報告書のとりまとめ
- 7月25日：本人に調査報告書を送付。弁明の機会を付与
- 8月8日～8月23日：本人から3回に亘り弁明書の送付
- ～ 9月29日：引き続き4回の調査委員会の開催を経て、弁明書を踏まえた調査結果を取りまとめ。調査委員会が不正行為を認定
- 9月30日：調査結果を学長に報告

2 調査内容

(1) 調査対象論文

本人が京都府立大学在職中の平成18年度(2006年度)から平成24年度(2012年度)に採択された3件の科研費基盤研究Cの研究成果報告書他の研究業績一覧を元に、調査対象論文リストを作成した。

同リストにおいて、論文と認められるのは、論文とみなすに十分な長さのある18点である。他に「図書」に挙げられた2点がある。本調査はこの20点全てを対象とした。

(2) 調査方法

① 先行研究論文との突合等

インターネット上及び書籍等から入手した先行研究論文と本人の論文とを詳細に比較し、同一表現及び極めて同一表現に近い類似表現の箇所を調査

② 弁明書

本人に弁明の機会を与え、本人から送付された弁明書に基づき調査

③ ヒアリング

本人の所属していた日本言語学会に事情聴取。専門家の立場から見解を聞き、調査の参考とした。

3 調査結果と認定結果

上記（１）でリストアップした20点の論文のうち、日本語で書かれたものは4点、英語で書かれたものは16点であった。英語論文16点には、分量の差はあるものの、全てに出典等の適切な表示なしに先行研究の文章から引用する盗用が認められた。日本語論文4点には盗用は認められなかった。

盗用の程度については、英語によるすべての論文16件において行われており、最も少ない論文では20行であるが、最も多い論文では本文の約8割が盗用である。このように本人による盗用はおびただしい量であり、しかも、長年にわたって継続的に行われていたことが、今回の調査によって明らかになった。

4 本学の対応

- (1) 名誉教授の称号の取消(平成26年10月20日)
- (2) 「京都府立大学学術報告」に掲載された論文の採択取消(平成26年10月20日)

5 不正行為のあった論文名

- 1) Kensei Sugayama: Review Article: "Gisborne, *The Event Structure of Perception Verbs.*" *English Linguistics* 29(2) (2012)
- 2) Kensei Sugayama: "Another Look at 'kono akai hana' and 'akai kono hana' in Japanese." 『京都府立大学学術報告 人文』 第64号. (2012)
- 3) Kensei Sugayama: "The Main Determinants of Sentence Meaning: Verbs or Constructions?" Proceedings of the 12th Chinese Lexical Semantics Workshop (2011),
- 4) Kensei Sugayama: "Why 'kono akai hana' and 'akai kono hana' Are Both Possible in Japanese: A Word Grammar Account" DepLing 2011 Proceedings (2011)
- 5) Kensei Sugayama: "The Articles and Determiners in English: An Introduction" 『英語語法文法研究』 (2011)
- 6) Kensei Sugayama: "The Grammar of 'Be To': From a New Word Grammar Point of View" JELS 29 (2012)
- 7) Kensei Sugayama: "Perspectives on the Structure of Language: A Word Grammar Account" 「序論、第1章」『京都府立大学学術報告 人文』 第63号 (2011)

- 8) Kensei Sugayama: *Kyoto Working Papers in English and General Linguistics 1*. Kaitakusha. (2011) 所収の “Towards an Interface between the Verb and the Construction: The Case of English Resultative Constructions”
- 9) Kensei Sugayama: "The Main Determinants of Sentence Meaning : Verbs or Constructions?" 『電子情報通信学会技術研究報告信学技報』 110巻407号(2011)
- 10) Kensei Sugayama: "The Articles and Determiners in English : A Word Grammar Analysis" 『京都府立大学学術報告・人文』第 62 号 (2010)
- 11) Kensei Sugayama: "Towards an Interface between the Verb and the Construction : The Case of English Resultative Constructions" 『京都府立大学学術報告・人文』第 61 号 (2009)
- 12) Kensei Sugayama: WG, NWG: "A Contrastive Introduction" 日本言語学会第 139 回大会予稿集 (2009)
- 13) Kensei Sugayama: "How Discourse/Cognitive Factors Can Influence Argument Realisation Revisited" 『京都府立大学学術報告 人文・社会』第 60 号 (2008)
- 14) Kensei Sugayama: "Verbs and Constructions" 『六甲英語学研究』 (2007)
- 15) Kensei Sugayama: "The Main Determinants of Sentence Meaning : Verbs or Constructions?" 『京都府立大学学術報告』人文・社会 第 59 号 (2007)
- 16) Kensei Sugayama: "A Lexical Semantics Approach to Designing a More User-Friendly EFL Dictionary" 『京都府立大学学術報告』人文・社会 第 58 号 (2006)

以上